



第4章

分野別の施策

4

都市基盤

産業

魅力あふれる
うるおいと活力のあるまち

基本施策 4-1 快適で住みやすいまちづくりの推進

施策58

公共交通の利便性の向上

■めざす姿(施策の目的)

鉄道やバス、タクシーなどの公共交通ネットワークが形成されるとともに、バリアフリー化や情報化が進むことにより、誰もが公共交通を快適に利用することができる環境が整っています。

■現状と課題

コミュニティバスの運行により、市内の交通不便地域についてはおおむね解消している状況がありますが、年々運行事業に要する経費は増加しているため、受益者負担の観点も踏まえて効率的な運行手法を検討する必要があります。また、鉄道事業者やバス事業者に対しては、更なる安全性の確保や利便性の向上を図るため、バリアフリー施設の整備等を継続して要望することが求められています。さらには、少子高齢化の進行により労働人口の減少が見込まれる中、公共交通ネットワークの在り方について、将来を見据えた視点で整理することが必要です。

■施策の方向性

- コミュニティバスについては、その運行を補助しつつ、社会情勢の変化や都市基盤の整備状況、市民ニーズや利用状況を把握した上で、他の交通手段との役割分担を検証するなど、持続可能な事業運営や利便性の向上に向けた検討を行います。
- 鉄道やバスなどの更なる安全性の確保や利便性の向上を図るため、ホームドア*50等のバリアフリー施設の整備等について交通事業者に対して要望し、バリアフリー化に要する費用の一部を助成するとともに、多摩都市モノレール事業及びJR中央線複々線化事業についても、関係市と連携を図り、関係機関に対して引き続き、事業の促進を要請します。
- 持続可能な公共交通ネットワークの形成に当たっては、現行の公共交通機関のみならず、シェアサイクル*51など様々な交通手段との連携を含めて検討した上で、各種取組を進めていきます。



コミュニティバス「ちゅうバス」

■指標

指標名	基準値	目標値 (R7)	指標の説明
コミュニティバスの年間利用者数	1,466,769人 (R2)	1,781,000人	全路線における年間利用者の合計です。
鉄道駅におけるホームドアの設置数	0列 (R2)	6列	ホームドアが設置された鉄道駅のホーム列数です。
公共交通機関が利用しやすいと感じている市民の割合	66.7% (R2)	70%	市民意識調査により把握します。

■主要な取組

取組名称	令和4年度から7年度までの取組内容
コミュニティバス運行補助事業	運行事業者の効率的かつ安定的な運行業務を支援するほか、利用者の増加に向けた啓発活動を実施します。
鉄道駅整備事業	鉄道事業者が実施するホームドア等のバリアフリー整備事業に対して、その費用の一部を助成します。
地域公共交通計画推進事業	持続可能な公共交通ネットワークの形成に向けて、地域公共交通計画を策定し、その後は本計画に基づく各種取組を市民・事業者・市が協働により展開します。

■協働により推進したい取組

- 持続可能な公共交通ネットワークの形成に関すること。

■SDGsとの関連



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS